

ど の し た 淵

【轟の滝景観対策 樹木の枝払い】

活性化委員会 環境・紫尾山対策事業において、轟の滝にかかる樹木の枝払いを行いました。これはきさら大橋からの眺望をよくするため実施したもので、クレーン車から作業用バケットを吊るしての大掛かりな作業でした。樹木の成長により橋からは全く滝（滝つぼ）は見えない状況になっていましたが、スッキリ、はつきりと眺められるようになりました。

今後、案内看板を設置する等、周辺の環境・インフラ整備に努め、泊野きさら川の各所に創り上げ、きさら公園と併せて賑やかな場所になったらいいなあ。



発行責任者

高峯公民会長

三 腰 善 行

090-1089-9432

令和6年2月1日発行



【どのした淵に冬のキャンパー】

27日どのした淵にキャンプ利用者がありました。薩摩川内市からグーグルで検索して来たとの事。年間を通してあちこちでキャンプされるとのことで、清流と周辺環境が気に入りの様子でした。又のお越しとキャンプ仲間への周知・宣伝をお願いする事でした。



【きさらの里公園 水車修復完了】

昨年地元大工さんの巧の技により見事に修復されました。今後、水車が水を湛えて常時回転するように水量を調整しなければなりません。きさら公園は区内唯一の公の公園でとても素敵な場所です。利活用の推進に努めましょつ。



だかんね寺小屋

【薩摩のさつま】ブランドってなうに!!

「薩摩のさつま」の独自認証基準を満たし認証を受けたさつま町の逸品です。2022年度に20の事業者で23品目の認証を受けました。2023年度には、新たに10の事業者で10品目の認証を受けています。

【大安吉日とまと(生産者:市園庄一氏・時吉)】

安全安心で美味しくなる様に、満足していただける様に、地元の農家が切磋琢磨して、こだわりの農産物を作り出しています。「大安吉日」も負けない様に頑張って生産しています。「真っ赤なトマトを食べたい」というニーズにお応えして、本当に真っ赤に熟れた果実を収穫し、なるべく早くお客様にご提供できる様に、その日のうちに出荷できる体制をとっています。

戦後の高度経済成長の少し前、沖縄にトマトを出荷しようと始まった、地元時吉地区のトマト栽培。厳しい自然環境を相手に長年培ってきた、「百姓の魂」を引き継ぐ逸品です。



◆ 町ホームページより抜粋

【2月行事予定】

- ◆初市 7日 ※ささ福かざり開始 17日まで
- ◆さくら公園桜植栽 11日
- ◆エンジョインフェス 11日（広域公園）
- ◆館長定例会 16日
- ◆町民大会18日（文化センター・工藤公康講演）
- ◆県下一周駅伝さつま町通過 19日
- ◆役員会 月末

- ◆資源ごみ収集日 17・31日
- ◆不燃ごみ収集日 15日

- ◆文書発送日 1・15日

◎さつま住民サポート号（自家用旅客運送）の試験運行期間が2月18日まで伸びました。この機会に2月の様々なイベント参加の為に利用してみたいかがでしうか!!。各家にチラシが配布されます。移動手段が困難になる前に体験しておくことも必要かもしれませんね。

【3月行事予定】

- ◆監査
- ◆令和6年度総会 24日（予定）
- ◆春季全国火災予防運動（1〜7日）
- ◆役員引継ぎ 31日（予定）
- ◆中学校卒業式 22・21日
- ◆小学校卒業式 22日

- ◆資源ごみ収集日 11・13日
- ◆不燃ごみ収集日 11日

- ◆文書発送日 7・21日

【防衛省 町に弾薬庫整備 調査予算計上】

※各種ネットニュースより（抜粋）

◆防衛省はさつま町に自衛隊の弾薬庫の整備を検討していて、来年度の予算案に調査費用（約10億円）を計上する方針を町に伝えました。

◆去年決定された安全保障関連3つの文書では、自衛隊が戦いを継続する能力を確保するためとして弾薬庫を増設する方針が示され、防衛省はおよそ10年後までに全国で30棟程度を新たに整備するとしています。こうした中、防衛省は、さつま町に自衛隊の弾薬庫の整備を検討していて、町によると、九州防衛局の担当者が、上野町長に来年度予算案に調査費を計上する方針を伝えたということです。弾薬庫の具体的な調査場所については示されなかったということです。町では、2018年に商工会などが協議会を設置し、自衛隊施設の誘致を国に要望していました。

◆県内ではこのほかに、射程を大幅に伸ばす改良型の開発が決まっている「12式地对艦誘導弾」が配備されている奄美大島の陸上自衛隊瀬戸内分屯地で、弾薬庫3棟の増設が計画されています。

◆南西諸島の防衛力強化を進める政府は、反撃能力の要となる長射程ミサイルをはじめ、各種弾薬の保管場所の確保を急務としている。トンネルのような地中式や、地表に土を盛って造成する地上覆土式がある。

◆自衛隊の弾薬庫は現在、全国に約1400棟ある。反撃能力を担う長射程ミサイルなどの弾薬の取得を進める中、保管場所は不足している。

※さつま町の人口は2005年の合併時2万6千人でしたが現在1万8千人まで減り続けている。人口増や交付金による地域活性化が期待できるとして誘致活動は続けられてきた。
国の防衛と町の安全、発展・活性化等あらゆる角度から傾注する必要があると思います。

ふるさと回顧録

『泊野に生きて』 大阪府八尾市 久木野正志

第7章 宮之城高校時代（昭和41・42・43）

◆自転車通学・・・泊野から二人野球部入部。放課後練習するが、最終泊野行きバスに乗るので陽が高いうちにやめる。するとキャプテンが「続けるんやったら自転車で来い」二人とも直ぐに親に買ってもらい、片道約12kmの自転車通学が始まった。今みたいなアスファルトではない。いわゆる砂利の時。疲れてからの帰り、登り坂がほとんど。当時は自販機などなく、1回目虎居西町の店。2回目は一ツ木の店。3回目は三腰商店。飲み物で頑張った。この三腰商店の店主に「泊野林産のトラックはもう登ったけ？」まだみちやらんど」と言われたら、トラックが来るまで待つ。運よく来たら「乗っシャイ」と言って、自分らで自転車を荷台に放り上げ十字路まで乗せてもらった。これはとても有難かった。

◆試合報告・・・月曜日。朝礼で全校生徒が校庭に整列。校長先生の話から始まって、終わりに各部の試合結果を主将が台に上がって報告。当時は水泳部と吹奏楽部が九州大会で有名な頃です。私の野球部はそれほど芳しくなくて朝礼のある月曜日がいやだった。ただ唯一公式戦の2ランホームランポール（県立鴨池球場左翼席）を今も宝物として持っております。

次号は、泊野を後にした（就職）以降（昭和44・45・令和4）をお届けします。

いよいよ最終章です。お楽しみに!!